

Q28 具体の川づくりにおいて、住民の参画を県はどのように考えているのか？

A28 川づくりにおいては、計画段階から住民との合意形成を図ることを基本とし、事業過程の透明性を確保しつつ、効率的で質の高い社会資本の充実を図ります。

具体には、河川整備基本方針、河川整備計画の策定に加え、

計画段階において、住民・NPOの参画を求めるなどにより、計画決定過程の透明性・客観性・公平性を高める

引き続き情報提供に努めるとともに、住民・NPO等の意見を反映する手法や住民主体の流域連携の仕組みを検討し、よりよい計画づくりに資する

工事実施（軽微な維持管理行為を除く）に際しては、土木事務所が、市や自治会等と相談したうえで、必要に応じてビラ配布や説明会を実施し、関係者への周知を図り、その中で得られた地域からのご意見に配慮しつつ、工事を行う

こととしています。

以下に、最近の武庫川水系での具体の取り組み内容を紹介します。

武庫川上流ルネッサンス懇談会（三田市）

三田市の中心部を広域に流れる武庫川上流の自然再生、利活用について、地域住民、NPO、学識者等の幅広い見地から意見交換、協議を行い、河川整備事業に反映するとともに、地域の内外にその取り組みを発信することを目的として武庫川上流ルネッサンス懇談会を設置しています。

平成18年度には6回の懇談会が開催され、本川や支川の自然を再生させることを目的とし、具体の整備内容などについて検討をしていただきました。

平成19年度には、県立有馬高等学校科学部とも連携し、池尻川ホタル再生施工実験、ホタル生息環境向上整備案の検討や羽束川でのオオサンショウウオの階段づくり、川ガキ養成講座などを行っています。



写真1 オオサンショウウオの階段づくり（羽束川）